

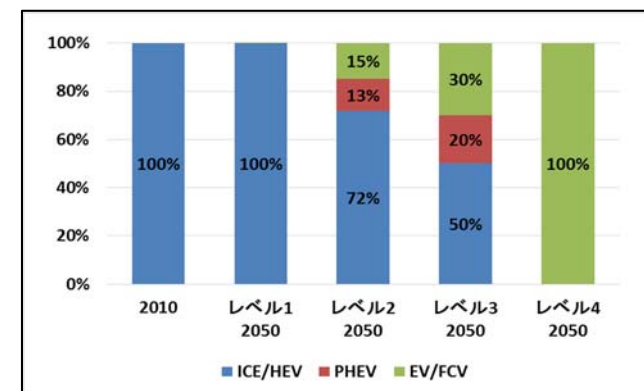
# ゼロ・エミッション車への移行

ゼロ・エミッション車に含まれるのは、電気自動車(EV)と燃料電池車(FCV)です。電車も含め、走行に際していずれも排気ガスを出しません。ハイブリッド車(HEV)とプラグインハイブリッドカー(PHEV)は、ガソリンエンジン又はディーゼルエンジンと電気モーターを併用しているためゼロ・エミッション車ではありません。2010年の日本の乗用車のほぼ全てがガソリン車かディーゼル車(ICE)で、EVとFCVの普及率は、PHEVをあわせても0.0002%未満とごくわずかです。本シミュレーションでは、4つのレベルを設定しました(図1)。詳しい設定に関してはエクセル・スプレッドシートモデルを参照してください(Zhou, et al. 2014)。

レベル	内容
1	2050年時点での乗用車及びバスは、HEVを含むICEが100%である。
2	2050年までに乗用車のICEまたはHEVの割合は72%となる。PHEVとゼロ・エミッション車(EV/FCV)の割合はそれぞれ13%と15%になる。バスはICEが68%であり、HEVとEV/FCVの割合はそれぞれ17%と15%になる。
3	2050年までに乗用車のICEまたはHEVの割合は50%になる。PHEVとEV/FCVの割合はそれぞれ20%と30%になる。バスはICEが50%であり、HEVとEV/FCVはそれぞれ35%と15%になる。
4	2050年までに100%の乗用車がEV/FCVになる。バスはHEVとEV/FCVがそれぞれ50%になる。

※ 先導的低炭素技術は、環境省 L2-Tech リストの「C-01 自動車(乗用車)」、「E-03 蓄電池」、「E-04-001 再生可能エネルギー由来水素製造」、「E-04-002 燃料電池」と「E-04-101 水素貯蔵」を参照(環境省 2014、2015)。

乗用車：技術普及度



バス：技術普及度

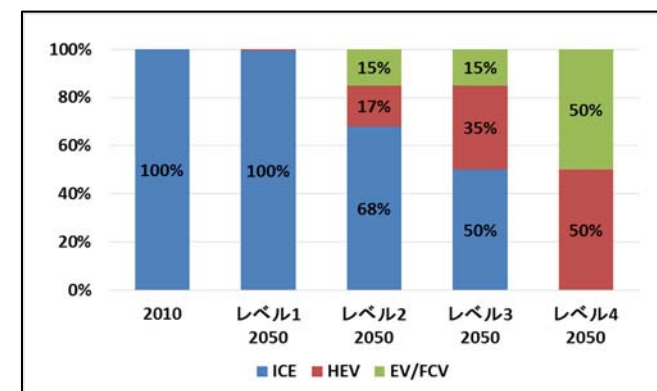


図1：旅客交通の技術普及度

## 参考文献

Zhou, X., Ashina, S., Kuramochi, T., Moinuddin, M., Wakiyama, T., and Kuriyama, A. (2014) Japan 2050 Low Carbon Navigator (Excel Model). IGES/NIES. <http://www.2050-low-carbon-navi.jp/web/en/index.html>

環境省(2014) 平成 26 年度版 L2-Tech リスト (素案) の公表について (お知らせ) .  
<https://www.env.go.jp/press/18927.html>

環境省(2015) 「L2-Tech2015 年度夏 認証製品 リスト」の公表について.  
<https://www.env.go.jp/press/101557.html>